

利益計画

「マネジメント」で注目を浴びている有名な経営学者のピーター・ドラッカーは、下記推薦図書にある『現代の経営』の中で「利益は企業存続の条件であって目的ではない」と書いています。また「天使が社長になっても利益計画の作成は必要である」とも書いています。今回はその「利益計画」についての話です。

利益計画を作成する場合は、まず経費を固定費と変動費に分ける作業をします。又は、なるべく固定費を変動費化する為の方法について考えます。

そして、損益分岐点を探し出して、目標とする売上高を算出します。

この利益計画は制度会計に定める収入と費用のバランスをとり、差引としての利益を求めるものです。

以前、この考え方には大きな勘違いがあると書いたことがあります。

なぜなら制度会計の利益とは収入と費用の差額、その収入と費用は制度会計が定めたルールに基づいた認識によるからです。

しかし、7割以上の中小企業が今現在赤字の状態とされています。

言い換えれば7割以上の会社が「会社存続の危機にある」という事になります。然しながら、多くの会社が経営計画書の中の利益計画すら作成していないのも現実です。中には利益計画は作成してみたいが、作成の方法が分からないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「学ぶ」ことは「真似る」ことといたしますから、まず真似ることから始めてみませんか？

経営計画書の中身の全てを、真似られるよう一式こちらで用意しております。ご入用の方は遠慮なくお知らせ下さい。

推薦図書：『現代の経営』

著者ピーター・ドラッカー

：『経営計画書は1冊の手帳にまとめなさい』 著者 小山 昇

：『経営計画の作り方』

著者 古田土 満